

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300530		
法人名	有限会社 友の里		
事業所名	グループホーム友の里		
所在地	鈴鹿市長沢町1750-1		
自己評価作成日	平成21年11月27日	評価結果市町村提出日	平成22年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470300530&amp;SCD=320">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470300530&amp;SCD=320</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 12 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した御利用者本位による自分らしい自立した生活を送る支援。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周囲は田畑があり、徐々に住宅も建ってきているが、静かな環境にある。地域の人達からは旬の野菜、果物、花等が届けられている。管理者自らの手作りの菓子や料理で、地域の人達を招く等交流の場としても、「楽しく、のんびり、一緒に」の理念を実践している。また、管理者はじめ職員は、利用者の意向や、思いを丁寧に記録し話し合い、より良いケアをめざしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	「地域の中でその人らしく暮らし、利用者と家族の満足と信頼を得て利用者の要望と自主性を尊重する」を理念として、毎日の申し送りや職員会議で、管理者、職員がともに話し合い理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、民生委員会そして、地域の住民に対しても各行事への参加を呼びかけている。	地域の自治会、老人会には加入していない(規則がある)が自治会長との連携はよく、事業所の行事には地域の住民の参加がある。また、地域の人達からは、畑で取れた野菜、果物等の差し入れがあり、日常の散歩時にも声かけがあり、子ども達の来訪もあり地域との交流は良い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種行事への参加の呼びかけ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議にて活かされている。	2ヶ月に1回開催されている。会議のなかで、地域交流の実施、意見交換等事業所のサービスの向上に生かせる取り組みになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議。	市高齢福祉課、広域連合組合等へ介護保険申請代行、相談等で連携はとっている。来たる1月には介護支援専門員を採用予定であり、更に連携を良くするようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議等にて話し合い職員全員で理解し、またその重要性を共有している。	身体拘束のない介護を職員間で共有しており、玄関のドアも開放され、利用者、家族も納得し、おだやかに過している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修の受講。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にて十分に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の定期便りを発行し、利用者の現況を報告している。また、意見箱を設置し、運営推進会議にて反映させている。また必要により生活相談員、広域への介入の申し出も予定している。	家族の来訪時には常に話しかけ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。出された意見等は、職員会議で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議にて話し合っている。	管理者は、職員から出された意見、提案は会議で話し合い合意を得て実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階・能力に応じた研修を行なうと共に、外部の研修にも積極的に参加を促す。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業他所を参考にし、自所の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約前に本人、家族との面談により本人、家族の意向を傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に本人、家族の希望、困っている事を聞く機会を作っている。 3～5日間の体験入所。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の思いを共感し、利用者個々の得意分野で力を発揮してもらい互いに感謝をする関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が望む時には気軽に訪問できる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの延長線上であるよう、本人をとりまく人や、支えてきた人たちとの関係が途切れないよう配慮している。	利用者と友人との手紙のやりとり、散歩時に親戚の人の声かけがあるなど、日常的にも地域の人達と顔なじみになり、よい関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や、能力、個性を上手く発揮できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域住民の方との交流の場への参加等を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを第一に配慮し、可能な限り本人本位に検討している。	日常のケアの中で声かけをし、利用者の表情や言葉等から、思い・意向の把握に努めている。利用者からの把握が困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や、ご家族、関係者等から聞き取り、利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしていただかか聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や、生活のリズムを注視し総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議、サービス調整会議等にて意見を出し合い介護計画を作成。	職員の意見を反映させるために、職員が利用者一人ひとりの目標をたて、チェックそれを基に検討し介護計画を作成している。ケアの見直しは常にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人個々の日常生活記録に介護計画を記載し、その計画に沿って実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制のできる医療機関との契約。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、近隣の教育機関等の協力を受けより良い暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制のできる医療機関との契約。	かかりつけ医のある利用者は家族の支援による受診であるが、時によっては事業所で支援することもある。協力医療機関の医師は1ヶ月に1回往診がある。歯科受診は支援しているが、今後は訪問歯科診療について検討をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在宅療養支援診療(24時間連携を有する)医療機関との契約提携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制のできる医療機関との契約。医療機関とは密に連携を図り安心して治療が出来るような関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期の利用者に対して、安心と安全を確保した対応ができるよう職員全員で話し合い、家族や、医療機関と密に連携を図り支援している。	終末期ケアの体験はない。今後利用者、家族の意向があれば、24時間対応の協力医療機関の医師の協力は得られるようになっている。	利用者の高齢化に伴い今後に向け、医師(協力医療機関)看護師、介護職員、家族等で終末ケアについての研修、話し合いをされる事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルにより、利用者の安全を第一に考え、定期的に訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアルにより、利用者の安全を第一に考え、定期的に訓練を行なっている。	年2回消防署の協力を得て訓練を実施している。また、夜間想定訓練もしている。近隣の会社、住民の協力は要請しており、災害用備蓄用品も地域での協力が得られる体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と、権利を守るための管理者、職員全体でプライバシー確保に向け話し合っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけ、行動を見守る等、思いやりの気持ちで接している。(トイレ、入室時)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の尊厳と、権利を守るための管理者、職員全体でプライバシー確保に向け話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が選ぶよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた、また要望に合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の材料や新鮮なものを取り入れ、利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫している。	食材は食材業者から購入(献立を含む)しているが、地域の人達から差し入れられた旬の野菜、果物を加えている。食事の準備、後片付けは職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康状態に応じ、栄養バランス、量等を考慮したメニュー作りに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に気を配り観察を心がけている。また側後の口腔のケアの促しの励行。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導したり、毎日の習慣化を支援。	利用者の殆どが、リハビリパンツ等利用している。昼間、尿意のない利用者にも声かけをし、自立支援に努めている。排泄後は、下半身の洗浄を実施し清潔に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者には飲食物の工夫や、運動を働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	言葉がけや、対応の工夫で、チームプレイにて入浴を楽しめるよう支援している。	週3回昼間に入浴できるようになっている。入浴順番は利用者の希望に任せ、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具等の清潔を心がけ、気持ちよく安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を日常生活記録に添付し、効能、副作用等を職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に見合った、出来る事、楽しみを発見し、役割を活かした楽しみごとに心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、安全にも気を配り外出の機会を設けるよう支援している。	日常的には、事業所の周辺の田畑あぜ道等への散歩に出かける。月1回は外食、買い物、コンサート、花見等に出かけられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者には、少額を手元に所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る入居者には自由に手紙や、電話が出来るよう環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自由に、また心地よい時間が過ごせるよう明るさ等に配慮している。	事業所の周辺は田畑等で、日当たりもよい。居間には大きなソファが置かれ、気の合った利用者同志が並んで話し合っている。また、居間とキッチンが対面になっていて調理の様子が見え生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でのプライバシーの確保は難しいが、可能な限りそととできるスペースに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が愛用していた馴染みの物を持参して頂き心落ち着く空間にと配慮をしている。	各居室には、ベット、収納棚、エアコンが設置されている。利用者の使い慣れたタンス、椅子等が持ち込まれ、また、家族の写真等も貼ってあり、利用者が居心地よく過ごせる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の解かる力を見極めて、活動意欲がスムーズに出来るように「何が解かり難いか」「どうしたら本人の力でできるか」を職員全体で話し合い、自立できるよう工夫している。		